

令和7年度 第1回 岸和田市スマートシティ推進協議会

防災ワーキンググループ 活動状況報告

2025.7.30

株式会社インテック

はじめに：昨年度の実証について

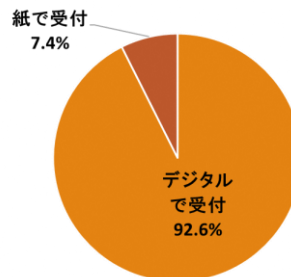
【実証実験】避難所チェックイン管理システムによる避難所受付の効率化の検証を実施しました。

- 日 時 : 令和7年1月25日(土) 13時00分～16時30分
- 場 所 : 岸和田市福祉総合センター
- 参加人数 : 延べ114名



受付の種類	参加人数	受付完了までの平均時間
手書き	15人	1分10秒
QRコード	43人	1分45秒
マイナンバーカード	56人	9秒

今後、避難所の受付をするなら・・・



その他意見(感想)

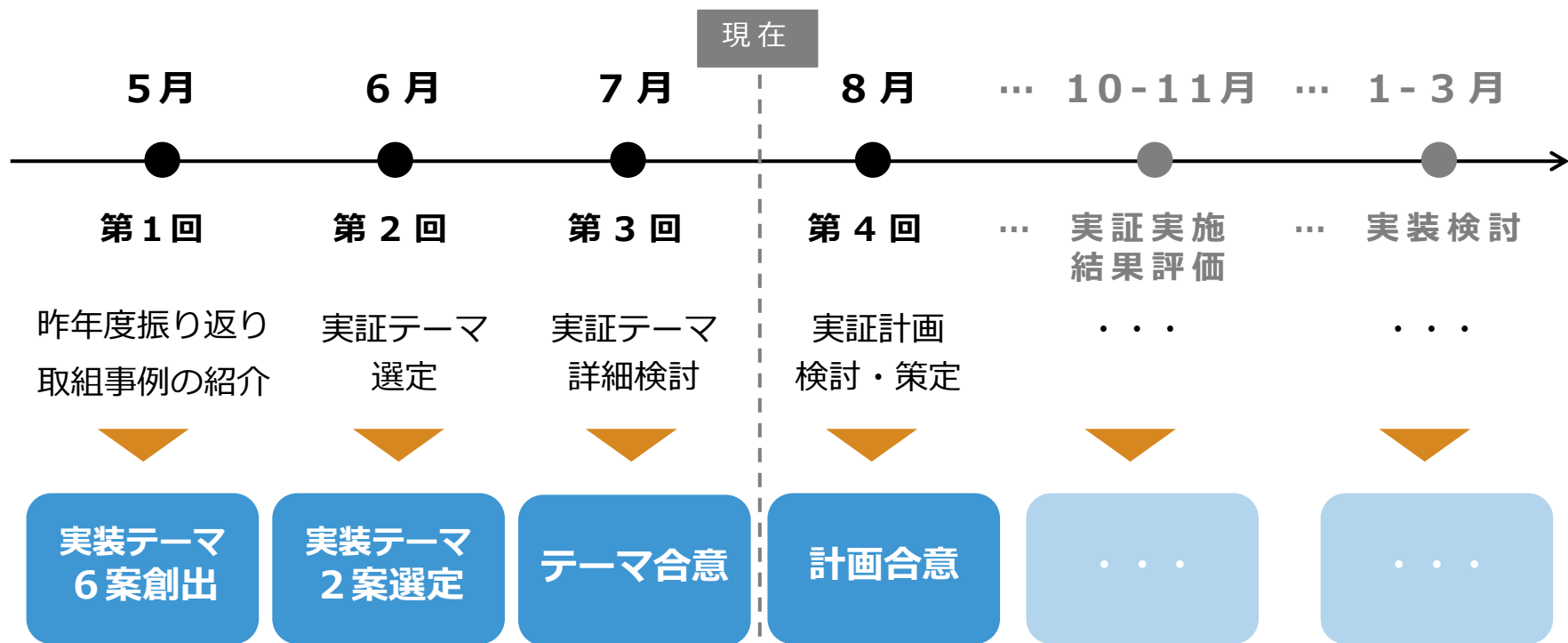
- ・ マイナンバーカードを作っていましたが、初めて使いました。もっと普及すると便利になると思います。
- ・ ぜひ導入を。
- ・ マイナンバーカードな紛失落としらと思うので、今のところ必要な場所、会場、医療関係には持参しています。
- ・ 紙ベースの手続きと比べてデジタル化によって受付が短時間で済み、混雑が減少した。手書きによる記載ミスや読み間違いが防げると思った。
- ・ このシステムが使えれば、各避難所での受け付けや情報把握が簡素化され、物資の配給などにも非常に役に立つと思う。
- ・ これまでマイナンバーカードを使わなかったのは、どんな情報が使われるのかが分からなかったからで、心配で使えなかった。
- ・ 受付の早さを今回は検証されていたが、早さも大事だが、どれだけ人手をかけずに、情報を集約できるかが重要だと思う。その点も十分考え評価していただきたい。
- ・ 参加させていただき、学びになりました。ありがとうございました。マイナンバーで簡単に受付ができたので驚きました。

実装に向けた課題や展開

- ✓ 災害規模を踏まえ、避難所のネットワーク環境、電源の確保をどうするか。
- ✓ UI／操作性の改善。（高齢者向けUIデザイン、操作教育なども）
- ✓ 避難所への避難者以外にも、自宅避難者などがあるがどう考えるか。
- ✓ 避難所受付管理と被災者台帳の連携・連動の想定があるのではないかな。
- ✓ 受付管理ができれば、物資の配給にも役に立つのではないかな。

実装に向けては、上記課題など含めて有用性について、継続検討を行う。

今年度の取り組み状況



昨年度の経験も踏まえ、岸和田市の課題や目指す姿をしっかりと協議しながら取り組む。

今年度の取り組み内容

住民／現場職員からの投稿による災害情報収集のデジタル化・効率化 庁内での災害情報共有（クロノロジーダッシュボード）のデジタル化・効率化

住民／職員

実証は職員のみ

スマホ/PCで
投稿

投稿WEBアプリ

災害情報
+
入力した情報



災害情報共有
(クロノロジーダッシュボード)

時間	項目	付与元	付与先	手段	内容
...
...
...
...
...
...
...
...

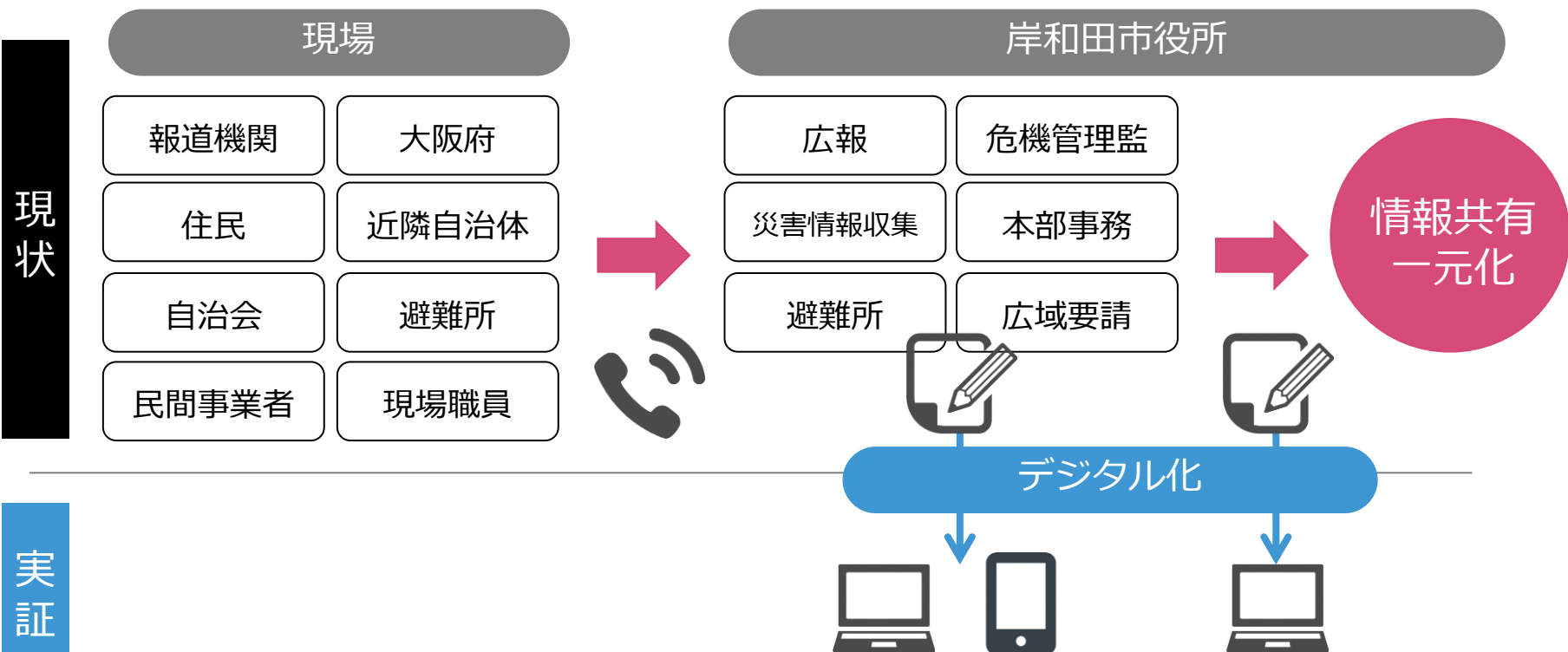
能登半島地震での経験

令和6年1月 能登半島地震で大きな被害を受けました。



地震の少ない地域と信じていた市民にとって、
備えの無さが浮き彫りになりました。

- 地震直後の大津波警報を受け、避難する必要のない住民も含め一斉に車移動することによる渋滞発生。
- 指定されていない建物（市庁舎）に住民が殺到。避難所に市職員が到着できず、やむを得ず窓を割って避難所を開設。避難者の管理は翌日以降に。
- 日頃からハザードマップの確認、避難所の確認が大事であること。発災時は安全な避難経路の情報が必要等、実際に経験してわかったことがあります。
- 自治体職員やインフラ事業者へのヒアリングから、官と民の情報収集と共有・発信を行い、迅速な救助活動や復旧活動ができる仕組みづくりの検討を始めました。



災害対処訓練をテーマとしたロールプレイング形式の実証実験

スマートシティ取り組み

- ✓ 電話や紙中心の管理から脱却することで、情報連携・共有のスピードアップ
- ✓ 単なる業務効率化でなく、本部と現場の意思決定・連携をデジタルで支援する構造改革



官民連携を図りながら、災害に備えたレジリエントなまちづくりへ

ITで、社会の願い叶えよう。



TIS INTEC
Group

＜本資料の取り扱いに関して＞

本資料は、著作権法及び不正競争防止法上の保護を受けております。資料の一部あるいは全部について、株式会社インテックから許諾を得ずに、複写、複製、転記、転載、改変、ノウハウの使用、営業秘密の開示等を行うことは禁じられております。本文記載の社名・製品名・ロゴは各社の商標または登録商標です。